

韓国社会福祉学会 2023 年度韓国社会福祉共同学術大会 研究発表報告

東洋大学福祉社会開発研究センター
門下 祐子

この度、2023年10月20日・21日に済州国際コンベンションセンターにて行われた、韓国社会福祉学会2023年度韓国社会福祉共同学術大会の発表者にご選考いただき、国際自由発表部門にて発表の機会に恵まれた。タイトルは、「知的障害者における『性』に関する学びのあり方—わかりやすい発行物の日韓比較を通して—」であり、知的障害者を主な対象とし「性」についてわかりやすく説明している書籍や冊子などの発行物について、日本と韓国の事例それぞれ2冊の調査結果を発表した。本研究は、羽山慎亮氏（一般社団法人スローコミュニケーション）と共同で行ったものである。当日は羽山氏も同席のもと、韓国語の通訳を金永光氏に依頼した。当日の発表まで様々にご尽力くださった金氏に、この場をお借りして心より御礼申し上げる。

研究目的は、発行物の内容や「性」に関する規範がどの程度扱われているかを調査すること、そして知的障害者における「性」の学びのあり方を検討することであった。その結果、日本の発行物は、「性」に関するトピック（月経・マスターベーション・恋愛・セックス・子育てなど）を網羅的に記載していたが、韓国の発行物は「恋愛」に焦点化し、パートナーとの関係性の構築などについて示していた。いずれの発行物も異性愛を前提とした記載が中心であったが、日本の発行物のほうが一つの固定的なライフコースを示しつつ、規範にそった行動を促す傾向が強いことが窺えた。これらの結果をふまえ、各発行物の特徴やその背景にある考え方・規範について、支援者・教育者らが批判的に考察していくことの必要性を提言した。発表後は、指定討論者である南ソウル大学社会福祉学科の張東虎教授から、「他に動画などもある中で、あえて発行物に関心を持った理由は？」「『わかりやすい発行物』の定義とはなにか？」「日本では、知的障害者が恋愛しているにもかかわらず結婚にはつなげていないように思う。さらに『性』に関して彼らが自己決定することに反対の声があると聞いている。この点について日本で賛成・反対する人の意見を教えてほしい」といった3つの質問を受け、それに対する回答を述べた。終了後は同じセクションで発表した北海道大学大学院の研究者やソウル大学大学院の方からも、コメントやご質問をいただき、重要な示唆を得ることができた。

学会期間中は、韓国の社会福祉教育の現状や農村地域における発達障害者支援の課題等の発表を聞き、次なる研究のアイデアが浮かぶなど、研究へのモチベーションが上がる契機にもなった。あらためてこのような素晴らしい機会をくださった日本社会福祉学会、そして研究発表をご支援くださった東洋大学福祉社会開発研究センターに心より感謝申し上げます。

今回の経験及び培ったネットワークをもとに、今後も研究を深めていく所存である。